

北前船通じ小樽再発見

19日に寄港地フォーラム

全国の北前船寄港地と連携し地域活性化を図る第28回北前船寄港地フォーラムが19日に小樽市で、20日に石狩市で開催される。小樽では専門家や地元の高中生が発表するセミナーを行う。同市は「江戸期から明治期にかけての北前船の時代を振り返り、小樽の魅力を再発見する機会になれば」と采場を呼び掛ける。

両市や観光関係者らによる実行委の主催。両市は18年、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に認定された。フォーラムは2007年から年に数回開かれ、今回は「北前船往来〜日本の繁栄と近代化を支えた絆をふたたび〜」がテーマ。

19日のセミナーはワイングベイ小樽(築港)のイオ

ンシネマで午後1〜5時。

潮見台中の文化部と未来創造高が授業で学んだ内容を発表する。東京国立博物館の錢谷眞美館長が、北前船交易での昆布とニシンかすの役割について基調講演。

小樽商科大の高野宏康学術研究員、大阪市経済戦略局

の柏木陸照局長、倉敷市の伊東香織市長も登壇する。

石狩市では20日午後1時20分から、田岡克介・前石狩市長やJR北海道の島田修社長らが講演。パネル討論も行う。いずれも無料。

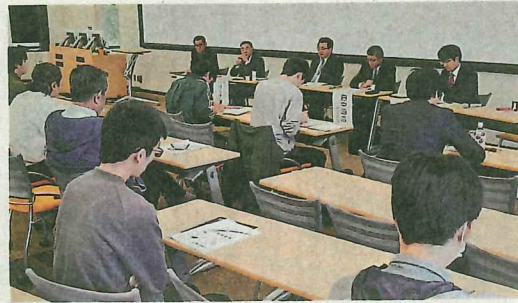
申し込みは15日必着で小樽市産業港湾部日本遺産担当 ☎0134・332・4111 (内線319)、ファクス 0134・333・7432、メール sisibori-tk@city.otaru.lg.jp。(日野夏美)

小樽の企業学び 地元就職考える

樽商大

小樽市は9日、市内企業への就職者を増やそうと、小樽商科大学で「企業研究セミナー」を開いた。参加者約10人は小樽の企業の現状を学び、働くイメージを膨らませた。

市が本年度始めた若者就職マッチング支援事業の一



環で、大学では初めて実施。「エムラジ」「小樽海洋水

小樽で働く魅力などについて考えた企業研究セミナー

産「近藤工業」「田中酒造」「利尻屋みのや」の計5社が参加した。

各社は会社概要や事業の内容、有休取得状況などを説明した。

同大3年の平間克己さん(20)は「参考になった。小樽は観光客が鍵になっていると改めて感じた」と話していた。

(前野貴大)